

ローマ第8章における命の霊の法則によって、
神聖な三一の神聖な分与の中で生きる

聖書：ローマ 8:2, 10, 6, 11, 28-29, 12:1-2

I. 勝利者となるかぎは、ローマ第8章における命の霊の法則です。ローマ第8章は、切実に尋ね求める者たちのための章です——ローマ 7:24-8:2, 28-29, 詩 105:4:

- A. ローマ第7章は、「肉の中に」いる経験です。ローマ第8章は、「霊の中に」いる経験です(この霊は、神聖な霊がわたしたちの人の霊の中に住んでおり、この二つの霊が共にミングリングされて一つ霊になっている霊です)——ローマ 8:4, 9-10, 16, I コリント 6:17, II テモテ 4:22。
- B. ローマ第8章における命の霊の法則を享受することは、わたしたちをローマ第12章におけるキリストのからだの実際へと導きます。わたしたちがからだの中で、またからだのために生きているとき、この法則はわたしたちの内で活動します——ローマ 8:2, 28-29, 12:1-2, 11, ペリピ 1:19。

II. ローマ第8章は、全聖書の焦点また宇宙の中心です。ですから、わたしたちはローマ第8章を経験しているなら、宇宙の中心にいます:

- A. 神は過去の永遠において、神の贖われた人々の中へと入って、神が彼らの命となることができ、彼らが神の団体的な表現となることができることを決めました。これは神のエコノミーの焦点です——エペソ 1:3-5。
- B. 人は神の創造の中心です。なぜなら神の意図は、人を通して表現されることであるからです。人が神の表現となることができるのは、ただ神が人の中へと入って人の命また内容となり、人を神と一にして、人が神によって生き、さらには神を生かし出すことによってです。このようにして、神は人の内側から表現されます。
- C. ゼカリヤ書第12章1節は言います、「天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる」:
 - 1. 人の霊は、天と地と共に並列されています。なぜならわたしたちの霊は、神が住むことを願う場所であるからです——エペソ 2:22, 参照、II テモテ 4:22。
 - 2. 天は地のためであり、地は人のためです。そして、人は神によって霊のあるものに創造されました。それは、人が神と接触し、神を受け入れ、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を完成し、神と一になるためです。
- D. 宇宙における中心的な焦点は、手順を経た三一の神がすでにわたしたちの中へと入って来て、今やわたしたちの中に住んでいるということです。こ

れは最大の奇跡です。宇宙の中で他の何も、これ以上に重要ではあり得ません——イザヤ 66:1-2. ヨハネ 14:23. 15:4。

- E. わたしたちはみな喜びに満ちているべきです。なぜなら三一の神がわたしたちに内住しており、わたしたちと一であるからです。彼はわたしたちの命またパーソンであり、わたしたちをご自身のホームとしつつあります——エペソ 3:14-17。
- F. 三一の神は、肉体と成ること、十字架、復活、昇天の過程を経過して、命の霊の法則となり、「科学的な」法則、自動的な原則として、わたしたちの霊の中に組み込まれました。これは神のエコノミーにおける最大の発見、さらには回復の一つです——ローマ 8:2-3, 10-11, 34, 16。
- G. ローマ第 8 章 2 節、9 節から 11 節における命の霊、神の霊、キリストの霊、キリストご自身、内住する霊はすべて、命を与える複合の霊を指しています——参照、出 30:22-25. ピリピ 1:19. I コリント 15:45 後半：
1. 「神の霊」という表現において、「霊」と「神」は同意語であり、その霊と神が一であることを示します——ローマ 8:9。
 2. 同じように、ローマ第 8 章の「キリストの霊」、「イエスを死人の中から復活させた方の霊」、「命の霊」は、その霊がキリスト、復活させる方、命であることを示します。ですから、その霊がわたしたちに内住しているのも、三一の神の三すべてが命としてわたしたちの中にいます——9, 11, 2 節。
 3. ローマ第 8 章のその霊はすべてを含む霊であり、三一の神の究極的完成、またわたしたちへの到達、適用です。
 4. 三一の神がすべてを含む霊として、わたしたちの中におられるのは、わたしたちが彼を、わたしたちの命またパーソンとすることによって経験し、享受するためです。わたしたちは三一の神の容器です——II コリント 4:7。
- H. わたしたちが主の中へと信じることによって主を受け入れたとき、彼は命の霊の法則として機能して、ご自身を神の神聖な、非受造の命(ギリシャ語、「ゾーエ(zoe)」)として、わたしたちの霊の中へと分与しました。わたしたちはみな、以下の偉大な啓示を見る必要があります。すなわち、わたしたちの存在の少なくとも一つの部分、わたしたちの霊はゾーエです。わたしたちが思いを霊に付けるとき、わたしたちの魂を代表する思いはゾーエとなります。さらに、命の霊の法則の活動を通して、ゾーエはわたしたちの死ぬべき体にも分け与えられることができます。このようにして、わたしたちは三部分から成る存在全体においてゾーエの人となり、ゾーエの都、すなわち新エルサレムとなります——啓 21:6. 22:1-2, 14。

I. 究極的に、この命はわたしたちを備えてキリストの花嫁とならせ、主が戻って来て、わたしたちを次の時代へともたすようにします。こういうわけで、聖書と宇宙の極めて重要な焦点は、ローマ第8章にあります。

III. **ローマ第8章は、手順を経た三一の神が命の霊の法則として、神聖な命を信者たちに、彼らの生活のために与えることを啓示しています。これは神聖な三一の神聖な分与の経験です——ローマ8:2, 10, 6, 11, 28-29:**

- A. 命を与える霊としての手順を経た三一の神が、わたしたちの霊の中へと組み込まれることは、電気にたとえることができます。わたしたちの内側の神聖な「電気」の法則としての神の活動は、わたしたちが協力して、祈ることによってこの法則に「スイッチを入れる」ことを必要とします——コロサイ4:2. エペソ6:17-18. Iテサロニケ5:17. 参照、マタイ24:27 (参照、フットノート1の最後の二つの文章)。
- B. わたしたちが祈りを通して主とのその触れ合いの中にとどまり、わたしたちの霊の中で彼との接触の中にとどまる間に、命の霊の法則は自動的に、自然に、苦もなくわたしたちの中で働きます——ヘブル11:1, 5-6. IIコリント4:13. マタイ8:3, 15. 9:20-21, 29. 14:36. 17:7. 20:34. ヨハネ4:23-24. ピリピ2:12-13. ローマ8:2, 4, 6, 13-16, 23. Iテサロニケ5:16-18。
- C. 祈りの意義は、わたしたちが神を吸収することです。わたしたちは神と接触すればするほど、ますます神を吸収します。そしてわたしたちは神を吸収すればするほど、ますます神をわたしたちの光また救いとして享受します——列王下19:30. イザヤ37:31. マタイ6:6. 詩119:15:
1. ダビデは詩篇第27篇1節で言います、「エホバはわたしの光、わたしの救いです」。彼は麗しさとしての神を見つめることによって、神と接触し、神を吸収しました(4節)。ですから、彼は内側で照らされて救いを受け入れました。
 2. ある詩歌は、「わたしの本当の状態」(詩歌724番、全訳)と言っています。これが意味するのは、わたしたちが自分の本当の状態のまま神に来て、自分の状態を改善したり変えたりしようとしなないということです。わたしたちはこのようにキリストを受け入れました。そしてこのようにキリストの中で歩くべきです——コロサイ2:6-7前半。
 3. 祈ることは、わたしたちの本当の状態のままで主に来ることです。わたしたちは主に来るとき、自分の内なる状態を彼の御前に置いて、自分があらゆる事柄で欠けていることを彼に告げるべきです。たとえわたした

ちが弱く、混乱し、悲しみ、言うことがなくても、依然として神に来ることが出来ます。わたしたちの内なる状態がどうであっても、わたしたちはそれを神にもたらすべきです。

4. わたしたちは自分の状態について顧慮するのではなく、神を仰ぎ、神を見つめ、神を賛美し、神に感謝をささげ、神を礼拝し、神を吸収することによって、神の臨在の中へと入り、神と接触する必要があります。そしてわたしたちは神の豊富を享受し、神の甘さを味わい、神を光また力として受け入れ、内側で平安で、明るく、強く、力づけられます。わたしたちは聖徒たちに言葉を供給しているとき、彼に結合され続けるという学課を学びます——Ⅰペテロ 4:10-11. Ⅱコリント 2:17. 13:3。
- D. 祈りの意義はまた、わたしたちが神を発表することです。ダビデは詩篇第27篇4節で、エホバの麗しさを見つめることだけでなく、「彼の宮で尋ね求める」ことを願ったと言っています。尋ね求めることは、神にわたしたちの中で語っていただき、祈りの中で神に対して語った言葉が、実はわたしたちの中の神の語りかけ、神の発表であるということです：
1. 真の祈りは、わたしたちが神に来て、神にわたしたちの内側で語っていただき、神が語ったことを、神に対して発表し返すことです：『わたしの顔を尋ね求めよ』とあなたが言われるとき、あなたに向かって、わたしの心は言います、『エホバよ、あなたの御顔を尋ね求めます』（詩 27:8）。
 2. わたしたちが真に神に触れ、神と接触し、神を吸収するとき、神はわたしたちの中で語ります。そしてわたしたちは、彼の内なる語りかけにしたがって祈ります。祈ることは神へ行き、神に会い、神に近づき、神と交流し、神を吸収して、神が内側でわたしたちに語る事ができます。わたしたちが、わたしたちに対する神の言葉をもって神に祈るとき、わたしたちの祈りは神を発表します——ヨハネ 15:7。
 3. わたしたちの祈りの第一の面で、わたしたちは神との交わりの中へと入り、神は働きのための彼の負担をもってわたしたちを油塗り、彼の意図をわたしたちに啓示します。わたしたちの祈りの第二の面は、主のみことろと働きの負担について、主に嘆願することによって主を尋ね求めることです。そのときわたしたちは神と協力して神の同労者になることによって、祈りの目的を遂行します——イザヤ 62:6-7. 45:11. エゼキエル 22:30. ダニエル 9:2-4. サムエル上 12:23. Ⅰコリント 3:9. Ⅱコリント 6:1前半。
 4. 尋ねる祈りは神を尊びます。ダビデはどのように祈るかを知っていました。なぜなら、彼はしばしばエホバに尋ねたからです(サムエル上

22:10. 23:2, 4. 30:8. サムエル下 2:1. 5:19, 23)。神が預言者ナタンを通してダビデに語った後、ダビデは「エホバの御前に座し」(7:18)、「あなたが語られたように行なってください」と主に告げました(25節後半)。そして彼は主に、彼の語りかけのゆえに、「あなたのしもべは、この祈りをあなたに祈る心を得たのです」と告げました(27節)。

- E. わたしたちは、主と会話し、わたしたちと彼との交わりを維持することによって、命の霊の法則としての、内住する、組み込まれた、自動的な、内側で活動する神と協力しなければなりません——ローマ 10:12-13. 創 13:18. Iテサロニケ 5:17. エペソ 6:17-18. ピリピ 4:5-7, 12-13. 詩 62:7-8。
- IV. わたしたちが霊の内なる感覚に注意するとき、命の霊の法則はわたしたちの中で活動的になります。わたしたちがみな学ばなければならないクリスチャン生活の秘訣は、ローマ第 8 章 6 節に見いだされます。この節は、命の霊の法則としてのキリストに対するわたしたちの霊的な経験に関する、聖書における最も重要な節です——「肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です」:
- A. 思いを肉に付けることは、肉の側に付き、肉と協力し、肉と共に立つことを意味します。思いを霊に付けることは、霊に注意し、霊の側に付き、霊と協力し、霊と共に立つ、すなわち、わたしたちの霊に注意を払うことです——マラキ 2:15-16。
- B. わたしたちは霊の内なる感覚に注意し、命と平安の内なる感覚に従うなら、主を彼の唯一の行動のために、からだのかしらとして尊びます。使徒パウロは彼の福音の奉仕において、キリストのとりこであり、彼の外なる環境によって支配されたのではなく、彼が「わたしの霊には安息」があるかどうかによって支配されました(IIコリント 2:13)。彼の霊は彼の存在の最も主要な部分であり、彼は彼のミングリングされた霊によって管理され、支配され、方向づけられ、動かされ、導かれました(Iコリント 2:15. ローマ 8:16. Iコリント 6:17. IIコリント 2:12-14. 7:5-6)。
- V. 究極的に、わたしたちが命の霊の内住する自動的な法則を享受することによって、神聖な三一の神聖な分与の中で生きることは、キリストのからだの中にあり、キリストのからだのためであり、その享受の目標は、わたしたちを神格においてではなく、命、性質、表現において神とならせ、彼の永遠のエコノミーの目標である新エルサレムを完成することです——ローマ 8:2, 28-29. 12:1-2. 11:36. 16:27. ピリピ 1:19. 参照、ガラテヤ 1:15-16. 2:20. 4:19, 26-28, 31。